

イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生状況と防除対策

1. 発生状況

- (1) 山口県病害虫防除所の調査によると、瀬戸内地域はトビイロウンカの発生状況が平年より多く、保毒率も7.6%と平年の1.2%を大きく上回っている。

2. 今後の予想

- (1) ヒメトビウンカの発生
やや多
- (2) 縞葉枯病の発生
5月下旬までに移植される圃場（極早生種～移植時期の早い中生種）及び麦類の作付が多い地域を中心に発病が多くなると予想されている。

3. 防除対策

- (1) 休耕田は早い時期にすき込み、畦畔の雑草は刈り取る。
- (2) 昨年発生の多かった圃場は遅植え（6月）にする。
- (3) 発病初期に発生が認められた場合は、可能な限り抜き取る。
- (4) 箱施用剤にプリンス剤を使用する。

4. その他

- (1) 箱施用剤は規定量を必ず使用する。
- (2) プリンス剤は魚毒性が高い為、本田移植直後の落水はしない。
- (3) ヒメトビウンカは多飛来することがあるので、今後の情報に注意する。

縞葉枯病とは？

イネ縞葉枯病ウイルスにより発生し、ヒメトビウンカが媒介する。症状は、イネの本田初期から新葉が黄白色となりこより状に巻いて垂れ（ゆうれい症状）、葉には黄色から黄緑色の縦縞模様が認められることが多い。

